



Data 2022-127

監督・脚本：陳思誠（チェン・スー
チェン）

出演：黄渤（ホアン・ポー）／榮梓
杉（ロン・ズーシャン）／姚
晨（ヤオ・チェン）／範偉（フ
ァン・ウェイ）／黃楊鈺甜（ホ
アンヤン・ティアンティア
ン）

👁️👁️ みどころ

モーツァルト（莫扎特）は天才だが、『アマデウス』（84年）の導入部を観ていると、まるでガキ大将！本作にみる“宇宙から来たモーツァルト”は、一見何の変哲もない“ぬいぐるみ”だが、なぜこれ（彼？）がトルコ行進曲を弾けるの？

「実話モノ」と違って、「SFモノ」は何でもあり。ぬいぐるみだって、頭についたアンテナさえあれば、宇宙との交信も！そして、地球征服の先兵になることも！

中盤以降は、地球上にある“怪しげな秘密結社”との壮絶な闘いを楽しみながら、どんなラストに結びついていくのかに注目！それにしても、中国にこんなSFモノがあることにビックリ！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■モーツァルトもいろいろ！『アマデウス』VS本作！■□■

用汉语写“モーツァルト”是莫扎特。“楽聖”ベートーベンを主人公にした伝記映画もいろいろあるが、“神童”モーツァルトを主人公にした伝記映画の代表は、何といても『アマデウス』（84年）。同作の特徴は、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトを「ライバル！」とみなした、凡才（？）サリエリの視点からモーツァルトの生涯を描いたことだが、そこではモーツァルトの天才ぶりと共に、ヤンチャぶりもタップリ描かれていた。そのため、同作を見れば、天才と狂人は紙一重だということがよくわかったはずだ。『アマデウス』で見た、そんなモーツァルト像に対して、原題の『外太空的莫扎特』を、そのまま『宇宙から来たモーツァルト』という邦題にした本作のモーツァルトは・・・？

2022大阪・中国映画週間で上映された計8本のうちの1本である本作のジャンルは「コメディ/SF/ファミリー」の3つに跨がっている。上映時間も136分と最も長い。

そのため、良くも悪くも、本作は盛りだくさんになっているが、何と本作のモーツァルトは、一見何の変哲もない“ぬいぐるみ人形”。しかし、よくよく見ると、その頭にはアンテナのようなものが・・・。

本作冒頭、入学者に対するサークルの勧誘風景が描かれるが、父親の任大望（黄渤）から毎日ピアノの練習を強要されている一人息子の任小天（榮梓杉）が弾くモーツァルトのトルコ行進曲（ピアノソナタ第11番第3楽章）のレベルは？

■□■主人公の夢は不是演奏家、而是天文学者！■□■

人口14億人の中国は競争社会。受験生が1,000万人という中国の「高考制度」の過酷さは、『少年の君』（21年）（『シネマ49』269頁）の中で端的に表現されていたが、ピアノの演奏家を目指すとしたら、どうすればいいの？陳凱歌（チェン・カイコー）監督の名作『北京ヴァイオリン』（02年）（『シネマ5』299頁）は、最後にチャイコンことチャイコスキーのヴァイオリン協奏曲が高らかに演奏される中で涙の感動物語が終わったが、田舎町から北京に出て一流の演奏家になる道は大変だった。

同作では13歳の主人公は天才であるうえ、懸命な努力をしていたが、本作に見る主人公・小天は練習をサボってばかりだから、こりゃやばい。そんな息子と二人暮らしの父親・大望はスパルタ教育でレッスンを監視していたが、小天は親の目を盗んでばかりだ。そんな時、入学者に対するサークル勧誘活動で偶然入手したぬいぐるみ人形が、ピアノの前に座ったかと思うと、見事にモーツァルトのトルコ行進曲を！隣の部屋でそれを聴いた大望は大喜びだが、小天の夢は演奏家にあらず、彼の夢は天文学者になることだったから、ピアノの練習はそっちのけで空の星ばかりを・・・。

■□■このモーツァルト（莫扎特）はなぜ地球に？その野望は？■□■

中国の古典と言えば、『三国志』や『水滸伝』。近代文学と言えば、ノーベル賞作家・莫言（モー・イェン）の『紅いコーリャン』や、閻連科（イェン・リエンコー）の『太陽が死んだ日』『炸裂』等がある。しかし、近時の中国文学にはSFモノの名作も多く、その代表が劉慈欣（リウ・ツーシン）の『三体』だ。彼の近時の作品には、11編の短編を2冊にまとめた『流浪地球』と『老神介護』もある。

そんな影響もあって本作が誕生し、「2022年大阪・中国映画週間」で上映されたわけだが、『宇宙から来たモーツァルト』の正体は一体ナニ？モーツァルトはピアノ演奏だけでなく作曲もできたが、このぬいぐるみはそれもできるの？それはともかく、そもそも、このモーツァルトは何のために地球にやって来たの？当然そんな疑問が湧いてくるが、それは大望と小天の父子対立の中で常に微妙な行動を見せるぬいぐるみや、宇宙からやって来たモーツァルトの“ある行動”によって明らかにされるので、それに注目！

前述したように、ぬいぐるみの頭にはアンテナのようなものがついていて、これは宇宙と交信するため。というよりも、上層部からの指令を受信し、その命令どおりに動くためらしい。天文学者を目指している小天は、そんなぬいぐるみのモーツァルトが宇宙の星

と交信できることを単純に喜んだが、ホントにそんなモーツァルトと友達になっているの？そんなことをすれば、ひょっとしてモーツァルトを先兵とする宇宙の某国からの地球侵略に手を貸すことになるのでは・・・？

■□■地球上にも怪しげな秘密結社が！■□■

SFモノは奇想天外なストーリー展開の面白さがポイントだが、本作では“宇宙から来たモーツァルト”である、頭にアンテナをつけたぬいぐるみが、宇宙の某国からやってこようとしている地球侵略軍の先兵と見えなところがミソ。その理由はその可愛らしさにあるが、対立する(?)父子関係の間に立ち、トルコ行進曲を媒介として、うまく両者の調整を図る器用さも見せてくれるから、このぬいぐるみ、いや“宇宙から来たモーツァルト”の能力は素晴らしい。

他方、そんな愛嬌いっぱいの“宇宙から来たモーツァルト”に代わって、本作中盤以降は、地球征服をもくろんでいる、地球上の怪しげな秘密結社が登場してくるので、それに注目！日本では近時、旧統一教会問題が話題を呼び、被害者救済法案の成立が図られているが、かつてその広告塔として、歌手の桜田淳子が存在していた。彼女がなぜ統一教会と接点を持ち、その教えにのめり込んでいったのかは知らないが、本作でも“ある美人”が怪しげな秘密結社の広告塔として登場するのでそれに注目！そのため、本作の中盤以降は冒頭で見た楽しげな入学式の雰囲気とは全く異質な、SFモノ特有のあつと驚く展開になっていくので、そのストーリー展開はあなた自身の目でしっかりと。

そして、本作ラストでは、宇宙から来たモーツァルトが宇宙に帰っていく姿(?)をしつかり目に焼きつけたい。

2022(令和4)年12月6日記



宇宙から来たモーツァルト
外太空的莫扎特 (2022)

監督: 陳思誠
脚本: 陳思誠/陳思宇/範凱華/全麗璇
唐紅漢/楊木子
キャスト: 黃渤/榮梓杉/姚晨/範偉/黃楊鈿甜
ジャンル: コメディ/SF/ファミリー 上映時間: 136分

🕒 上映時間
11月12日(土)19:20 11月17日(木)19:20